

川崎地質(株) 穴戸 拓磨



今年度、地質調査技士の資格を無事得ることができ、非常にうれしく思います。

今年、入社4年目となり、とうとう地質調査技士を受験できるようになりました。

私の会社では4年目の社員はほぼ全員地質調査技士の試験を受けることになっており、先輩方はだいたい1回目ですべて受けていたので、無言のプレッシャーのようなものがありました。

それに加えて、入社以来、初めての試験ということもあり、勉強の仕方も忘れ、非常に不安のあるものでした。

そのような中、試験を受けるにあたってまずしたことは、事前講習会への参加登録と、先輩に試験勉強の仕方を聞くことでした。

事前講習会は参加すると加点されるという、安易な考えからでしたが、講習会のテキストも非常に有用でした。

勉強の仕方については、どの先輩からも、過去問を何度も繰り返しとくこと、経験論文を準備して、わかりやすい文章でかけるよう準備すること、というアドバイスを貰いました。

過去問などは早くからやっておけばよかったのですが、試験までは時間がたくさん残されていること、通常の業務が忙しいことなどを言い訳にして、本格的な勉強は講習会終了後からでした。

過去問を最初に解いたときは、5割も正解できず、愕然としました。

やはり、講習会の話の聞いただけでは、身に付かず、実際に自分の頭と手を使わないと身に付かないのだということを痛感させられました。

不正解だった箇所を講習会のテキストと照らし合わせ、確認するという作業の繰り返し

返しだったため、テキストは大活躍で、講習会に参加しておいて本当によかったこのとき思いました。前述した作業を3年分繰り返し返したときには8割りぐらい正解できるようになり、そこで少し自信が持てるようになりました。

少しは解ける手応えを持って挑んだ試験試験ですが、当日は、マークシートも筆記試験の傾向が結構かわっているように感じられ、試験早々面くらいました。マークシートは例年よりやや難しく、自信を持って正解を選べたのは、5~6割ぐらいでした。しかし、今回の一番の衝撃は経験論文が試験問題からなくなっていたことです。準備が全て水の泡でしたが、条件は皆同じなので、時間内のなんとか今までの経験・知識を振り絞って、回答欄を埋めることができました。

今年の試験は、例年よりも、事前に準備をしておけば答えられるとう問題が少なく、現場や業務でどのようなことを経験し学んできたかを問うような問題が多かったのではないかと思います。

結果が出るまでは結構ヒヤヒヤでしたが、なんとか合格することができ良かったです。

予想外の問題が出て、諦めたり、投げ出したりせず、粘った甲斐があったと思います。今回、私にとって初めて肩書きとしてかけるような資格を取りことができ、ようやく本格的な技術者としての一步を踏み出せたと感じています。今までは、まだ4年目とっていましたが、業務によっては主任技術者になり得る資格を持ったことを肝に銘じ、もう4年目、主体的に業務に携わっていかねばならないと心を入れ替えて仕事に取り組みたいと思います。